

VIII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

小・中特研部会

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第1回全国理事研究・研修協議会並びに定期総会、第1回全国副会長研修会出席（5月29日30日）【東京都】
- ② 第1回事務局会の開催（6月7日）
- ③ 第1回理事会（6月25日）
- ④ 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第61回全国研究協議会「兵庫大会」第2回全国理事研究・研修協議会、第2回全国副会長研修会出席（8月1日）【兵庫県】
- ⑤ 第58回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会（8月2日）
「各教科等を合わせた指導」で宮崎市立田野中学校教諭 満安辰郎教諭が発表
- ⑥ 第52回九州地区情緒障害教育研究会佐賀大会に参加（8月2日）
「LD／ADHD分科会」で宮崎市立宮崎小学校 小野友香教諭が発表
- ⑦ 第48回九州難聴言語障害教育研究会沖縄大会に参加（8月9日）
第5分科会「連携」で川南町立川南小学校 竹田泰代教諭が発表
- ⑧ 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第3回全国理事研究・研修協議会、第3回全国副会長研修会出席（1月24日）【滋賀県】
- ⑨ 第2回事務局会（1月下旬）
- ⑩ 第2回理事会（2月20日）、研究集録「むすび」発行（2月）
- ⑪ 監査（3月）

3 主な研究成果

(1) 成果

- 地区名簿をExcelの様式で統一したことで、負担金の計算がしやすくなった。負担金はすべての地区特研から完納され、関係団体へ納金することができた。
- これまでの冊子で作成・発行していた研究集録「むすび」を、より多くの人に活用してもらえるようにするため、今年度から県教育研修センターのHPにアップロードするようになった。
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会佐賀大会では、宮崎市立田野中学校満安辰郎教諭が、九州地区情緒障害教育研究会長崎大会では、宮崎市立宮崎小学校小野友香教諭が、九州難聴言語障害教育研究会沖縄大会では、川南町立川南小学校竹田泰代教諭が、それぞれ実践発表を行うことができた。

(2) 課題

- 理事会での伝達事項が各地区に周知されず、何度も連絡をする必要があった。
- 各地区とも、負担金の財源に苦慮している。また、請求書や領収書の形式等が各地区によって異なるため、会計の対応が大変だった。

令和5年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

本年度は、6月と12月に部会を計画した。第1回は都城さくら聴覚支援学校、第2回を児湯るびなす支援学校を会場として実施した。両日とも、学校概要説明や学校見学を行った後、各校から出された課題に対する各校の取組状況の情報交換を行った。各行事の取組状況や授業時数等の教育課程、各種様式の共有、ICTの活用、働き方改革などの意見交換を行うことができた。意見交換や情報共有を行うことで、今後の教育課程や取組の参考にすることができた。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会実施を計画した。研究テーマを「各校の生徒指導上の課題と対応策について」と設定し、第1回は6月に都城きりしま支援学校にて対面実施で行った。校則や規定の改訂、生徒会活動の在り方、いじめ・不登校の状況等について意見交換、情報共有を行った。第2回は学校見学の後、新たな課題や各校の危機管理マニュアルについて協議を行う予定である。今後もミライムや学校間共有を活用して、各校の規定・規約の資料を共有しながら課題解決を図りたいと考えている。

(3) 保健主事・養護教諭部会

本年度は年2回の部会を計画し、第1回目を7月30日（火）に実施した。情報交換では熱中症対策や、雷注意報における水泳の授業のあり方を行った。また、医療的ケアを必要とする児童生徒の修学旅行への看護師の帯同や、医療的ケア生の行程の工夫や安全管理等について協議を深め、各校の今後の取組の参考とすることができた。2回目の部会は2月21日（金）に開催予定である。各学校の取組や成果と課題について協議を行いたい。

(4) 進路指導主事部会

今年度は年2回の部会を計画しており、「特別支援学校におけるキャリア教育の推進、その他進路指導に関する事項について協議する」ことを目的とした。部会は第1回を8月23日（金）に日向ひまわり支援学校で行い、昨年度卒業生の進路先についての報告と課題について協議し、キャリア・パスポートの進め方が報告された。第2回は2月下旬に今年度の卒業予定者の進路状況報告と、就労選択支援について情報共有を行う予定である。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

第1回部会は、7月29日（月）に明星視覚支援学校にて、衛生管理における課題と改善策、個別指導についての協議を行った。個別指導については、保護者との面談等の実践を持ち寄り、より効果的な支援方法や教材について深めた。第2回部会は、2月21日（金）に明星視覚支援学校にて、調理場の見学や給食の試食、食に関する指導や各学校での衛生管理について情報共有・協議を行う予定である。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実を図っていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で22回を迎え、11月14日（木）から11月17日（日）まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催した。1369名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画248点、立体99点、書道22点、写真49点、合計418点となり、幼稚部、小学部、中学部、高等部総勢414名の出品者数となった。また、今年も13校によるコラボ企画として、高さ5m、幅8mの壁面全体を覆う大作を制作し、大変好評であった。

(7) 音楽科代表者部会

7月は小林こすもす支援学校の授業提供と「インクルーシブな学校運営について」の講話があり、小林高等学校の生徒との共同学習や授業計画等について協議を行った。10月は都城きりしま支援学校の授業提供があり、仲間と音楽づくりを行う共同学習やコミュニケーション等、主体的な学びについて協議を行った。更に県高等学校教育研究会音楽部会との連携による「教育現場で使える音楽と遊び～感覚と運動の視点を踏まえて～」の講話では、体験を交えた合奏の具体例等を学ぶことができた。

(8) 保健体育科代表者部会

第1回：研究の進め方についての協議や、宮崎県学校体育研究発表大会の説明、報告があった。特別支援学校体育連盟の設置に向けての協議も行い、各学校の代表者から様々な意見が出された。

第2回：部会の研究として来年度の学体研の取組について協議した。

第3回：学体研の報告と特別支援学校体育連盟の設置に向けて、各学校で集約した意見を持ち寄ってグループでの協議を行った。

第4回：次年度の研究についての協議や特別支援学校体育連盟の設置に向けての準備を進めていく。

(9) 家庭科代表者部会

今年度は6月・8月・12月事務局を中心に、本年度の日程・内容の検討・役割分担・準備等を行った。第1回部会は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に実施予定で延期された「エコクリーンプラザみやざき」の見学・エコ工作実習等を行い、会議室も借用し主に準ずる教育課程を中心の学校グループ、知的障がいを伴う子ども対応グループと分かれて教材研究を実施した。第2回部会は12月4日にZoomで実施し、今年度のまとめ・教材紹介・アンケートを受け部会存続意向の確認等を行った。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、「教育活動全体における自立活動」を研究テーマとし、小林こすもす支援学校を会場校（事務局1年目）として、年2回の部会をオンラインにて実施した。第1回目は7月に、講師を招聘して「特設された自立活動と教育活動全体における自立活動の違いと実践」の講義を受け、各学校の取組について情報交換を行った。第2回目は12月に、各学校の「教育活動全体で行う自立活動」の事例報告から情報共有を行い、協議と質疑応答にて学びを深めた。

(11) 情報教育代表者部会

赤江まつばら支援学校にて6月に第1回部会を対面で行った。各学校の現状や課題、取組についての情報交換を行った。防災メールの代替手段やGIGAスクール端末について、クラウドサービスの利用状況などをテーマに議論した。また、各校の事例研究では、「tetoru」アプリなど、様々なツールや取組が紹介され、活発な意見交換が行われた。対面の良さを生かした研修を行うことができた。第2回部会は、2月に研修センターにて対面で行う予定である。